

公益財団日本クリスチャン・アカデミー
2018年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2018年度の事業計画に関する基本方針を次の通り定める。

I 事業計画基本方針

当財団は、2018年度において、以下の基本方針を掲げ、事業を推進する。

1. 財団事業の展開

定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 参加者同士の対話中心の宿泊プログラムを拡充する。
- ③ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。
- ④ 得られた成果を機関紙による広報を超え、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。
- ⑤ キリスト教精神に基づく未だ認知の不十分な幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。また、当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊研修施設を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い使用に供する。
- ② リピート使用者の丁寧なフォローおよび新規使用者の開拓などに取り組み、使用率の向上及び収支の改善を図る。
- ③ 効率的な運営をはかり、公益活動への貢献度を高める。

(3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並び

に各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的使用外の一般使用者、企業等への宿泊研修施設の貸出しを行い、その収益の一部を公益活動に資する。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の拡充を図る。

II 関東活動センター2018年度事業計画

2017年度には、日本キリスト教会館1階の部屋の改装工事を終了し、関東活動センターの事務所兼集会室として使用することとなった。それに伴い、集会場所が狭くなったので、2018年度からは早稲田奉仕園や早稲田教会の協力を得て、各講座や集会を実施していく予定である。そのような中で、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. 「今日的課題」Ⅰとして、学生たちを対象とした読書会を実施する。チューターを大森佐和（ICU 教員）さんをお願いし、特に学生 YMCA の OB・OG たちに呼びかけ、今日的課題について学び、また自由に話し合う機会を提供する。
2. 「今日的課題」Ⅱは、現在の政治的状況を踏まえて、憲法改正を初めとする最近の政治状況についての講演会・学習会を予定している。
3. 「宗教対話」Ⅰとして、昨年度に引き続き「日本キリスト教史を読む」シリーズを継続する。今年度は「大正篇（第二世代）」として、大正期から昭和前期にかけて活躍したキリスト者たちの足跡を追い、この国のキリスト

教の歩みを跡づける。なお、このシリーズは2019年度にも「昭和篇（第三世代）」として継続する予定である。またこの連続講座の参加者に呼びかけて、明治・大正期に設立された幾つかの教会を訪ねてその歴史を学び、また施設を見学するオプション・ツアーを計画している。

4. 「宗教対話」Ⅲは、「編集者から見た現代日本の知の状況」を連続講座の形で、Ⅳは昨年引き続き柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を共催プログラムとして実施する。
5. 「宗教対話」Ⅳは、体験プログラムとして、昨年引き続き「礼拝のためのヴォイス・トレーニング」を実施する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語訓練を行う。
6. 聖書を読むシリーズでは、入門的な聖書講座と、フェミニズムの立場からの聖書の読み直し、あるいは今日的視点からの聖書の読み方を探ることを目的としている。また日本基督教団出版局からの要請に応じて、新しい聖書学の成果を、著者を交えた講座の形で計画中的である。
7. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2018年度も各神学校の賛助を得て、第10回プログラムを実施する。また1第回から第10回までの講師の講演を編集し、新教出版社から報告書を出版することを計画している。なお、この神学生交流プログラムの第1回から校長として協力して頂いた関田寛雄先生を囲む元参加者によるリユニオンも計画している。第10回までの参加者約150名（その多くは現在各地の教会に仕える牧師・伝道者として働いている）に呼びかけて、関西セミナーハウスを会場に一泊二日で実施する予定である。

フォーラム事業			
関東フォーラム 今日的課題 I	全4回	読書会 講師 大森佐和 (ICU 教員)	第1回5月22日(火) 第2回7月24日(火) 第3回9月25日(火) 第4回11月27日(火)
関東フォーラム 今日的課題 II	1回	現在の政治を問う「憲法改正の動きに抗して」 講師 未定	日時未定
関東フォーラム宗 教対話 I	全6回	「日本キリスト教史を読む・明治編」山室軍平、中田重治、高倉徳太郎、賀川豊彦、金井為一郎、植村環、矢内原忠雄	第1回5月10日(木) 第2回6月14日(木) 第3回7月12日(木) 第4回9月13日(木) 第5回10月11日(木)

		講師 戒能信生	第6回 11月8日(木) 第7回 12月13日(木)
関東フォーラム 宗教対話 II	1回	明治・大正期に設立された 教会を訪ねて(信濃町教会、 番町教会、淀橋教会)	10月25日(木)
関東フォーラム 宗教対話 III	全3回	「編集者から見た現代日本 の知の状況」 講師 未定	第1回 7月13日(金) 第2回 10月12日(金) 第3回 2月8日(金)
関東フォーラム 宗教対話 IV	1回	柏木義円公開講演会「柏木 義円と現代」講師 山口陽 一(東京基督教大学学長) 共催プログラム	11月17日(土)
関東フォーラム 宗教対話 V	全5回	体験プログラム 「礼拝のためのヴォイス・ トレーニング」 講師 友野富美子	第1回 5月28日(月) 第2回 6月4日(月) 第3回 6月11日(月) 第4回 6月18日(月) 第5回 6月25日(月)
研修・セミナー・体験交流事業			
聖書を読む講座 I	全 10 回	『イエスの譬え話Ⅲ』を著 者と共に読む 講師 山口里子(日本フェミ ニスト神学・宣教センター 共同ディレクター)	第1回 4月10日(火) 第2回 5月8日(火) 第3回 6月12日(火) 第4回 7月10日(火) 第5回 9月11日(火) 第6回 10月9日(火) 第7回 11月13日(火) 第8回 12月11日(火) 第9回 1月8日(火) 第10回 2月9日(火)
聖書を読む講座 II	全5回	「上林牧師と旧約聖書を読 む」 講師 上林順一郎	第1回 6月8日(金) 第2回 7月13日(金) 第3回 9月14日(金) 第4回 10月12日(金) 第5回 11月9日(金)

神学生交流プログラム		第10回神学生交流プログラム 校長 関田寛雄(教団巡回教師)、講師 未定	2018年3月11日～13日
神学生交流プログラム・リユニオン		第1回～第10回の参加者に呼びかけて関西セミナーハウスを会場に実施予定	日時未定

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター事業計画

聖書あるいはイエスの福音が、現代の社会の課題に対しいかなる指針を示すかを考える。大学や新聞社などの公開講座とは異なる視点から問題を取り上げる。講師の講演を聞くだけでなく、参加者が講演を廻って語り合い、問題を共有し、深く掘り下げる。お金と時間を割いても、参加する価値のある集会とする。

1. 修学院フォーラム「社会」においては、昨年度に引き続いて「宗教と戦争」について考える会を2回持つ。中東、東北アジア、世界の平和を考える会を4回持つ。継続テーマの「エネルギーを考える」の第7回では、原発を克服する困難と、希望について考える。
2. 修学院フォーラム「福祉」においては、DVと虐待からの救済、山室軍平が遺したものを考える。
3. 修学院フォーラム「いのち」においては、高度先端医療時代の死と、遺伝子組み換え時代の生について考える。またピアノ演奏と語りを通して命の輝きを味わう。
4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。
5. これらに加え、お茶と俳句を楽しみつつ聖書の言葉を味わう会、紅葉の美しい季節に関西セミナーハウスの景観を背景に、お茶とお箏、器楽演奏を楽しむもみじまつりを催す。

フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第1回	宗教と戦争を考える(5) 新渡戸稲造の平和 佐藤全弘(大阪市立大学名誉教授)	4月21日(土)

	第2回	東アジアの平和と和解—近代日本人のアジア認識と平和の組みの可能性 山本俊正（関西学院大学教授）	5月12日（土）
	第3回	民族主義と普遍主義のはざままで～旧約聖書から国際平和を考える 月本昭男（上智大学特任教授）	6月30日（土）
	第4回	宗教と戦争を考える：6 宗教改革者の戦争観 村上みか（同志社大学教授）	10月6日（土）
	第5回	武器で日本を守れるか？ 岩佐 英夫（弁護士）	12月1日（土）
	第6回	エネルギーを考える第7回 フクシマの困難をどうのり越えるか 講師 交渉中 再生エネルギー社会へ向けて 講師 交渉中	2019年1月13日（日）-14日（月、祝）
	第7回	キリスト教と政治的課題（仮） 佐藤 優（作家、元外務主任分析官）	2019年1月26日（土）
修学院フォーラム 福祉	第1回	若者の貧困（仮） 藤田 孝典（(特活)ほっとプラス代表理事、聖学院大学人間福祉学部客員准教授、社会福祉士） 京都 YWCA と共催	6月9日（土） 会場：京都 YWCA
	第2回	山室軍平って知っていますか— 新島襄 の福祉思想と「良心」の系譜 木原活信（同志社大学教授）	2019年2月16日（土）
修学院フォーラム いのち	第1回	老いをいかに生き、支えるか：2 往きの医療 vs 還りの医療 —わたしたちはどんな死に方をしたいのか？	7月7日(土)

		島田宗洋（救世軍清瀬病院名誉院長）	
	第2回	遺伝子組み換えによりデザインされる子ども（仮） 講師 交渉中	9月予定
	第3回	いのちの叫び（仮） 演奏者 交渉中	2019年3月予定
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー 共催 京都市国際交流協会	6月24日（日） 会場：京都市国際交流会館
	第2回	ビジネスで持続可能な社会をつくる～タオルから織りなす豊かな社会 池内計司（IKEUCHI ORGANIC 株式会社代表）	7月14日（土）～15日（日）
	第3回	ロヒンギャはなぜ難民になったのか？～ビルマ（ミャンマー）の来し方行く末 宇田有三（フォトジャーナリスト）	9月15日（土）～16日（日）
	第4回	新しい日米外交を切り拓く～沖縄・安保・原発・TPP 猿田佐世（(特活)「新外交イニシアティブ」事務局長）	10月13日（土）～14日（日）
	第5回	今、外国人研修生は～私たちの社会と人権 早崎直美（RINK すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク事務局長）	11月3日（土）～4日（日）
	第6回	“スマート”でないスマホの裏側～鉱物資源の採掘からEVまで 田中滋（PARC アジア太平洋資料センター事務局長）	12月8日（土）～9日（日）
お茶のこころと宗教のこころ	全8回	聖書をいっしょに読みましょう 榎本 栄次（日本基督教団牧師、	4月～12月（除く8月）

		関西セミナーハウス活動センター所長)	毎月1回、 第1または第 2木曜
もみじまつり		茶席、邦楽、美術展示、音楽演奏 関西セミナーハウスと共催	11月23日(金、 祝)

IV 関西セミナーハウス事業計画

2018年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りである。

1. 運営方針

1) 公益目的事業の拡大

関西セミナーハウス活動センタープログラムでの活用の他、教育機関、学会、研究会、諸団体、周辺地域と連携し、その文化・教育・社会貢献活動への貢献を拡大する。

2) 収益事業の展開

引き続き、公益目的以外の一般利用者、企業等への宿泊及び研修施設の貸出を推進する。

3) 積極的な販促活動の展開

- ・2018年は、長年、本施設が支えられているコア利用者（大学、企業、キリスト教諸団体等）への丁寧なフォローを基礎にして、販促活動の強化年度と位置づけ、館長のリーダーシップの元、職員スタッフが一丸となって、利用者の拡大に取り組む。
- ・そのために、茶室、能舞台、日本庭園などの京都らしい文化的設備が持つ特色を生かしつつ、利用者に満足をもたらす運営を行う。
- ・広報活動は、利用候補先への職員スタッフによる訪問活動のほか、ホームページ、フェイスブックなどの充実をはかり、本施設を幅広く、継続的に広報する。

4) 収支のバランスを整える

長年にわたり、赤字が続いているが、事業の継続性を確かなものとするために、利用者の拡大、諸費用の節減などに取り組み、収支を整合化する。

5) 施設の補修、改修

中長期的観点に立って設備投資計画を定め、老朽化している施設の補修改修などを行う。そのために生み出されるキャッシュフローから必要な資金を適時積み立てる。

6) 公益活動への貢献

引き続き、公益財団法人の活動を支えるために一定額を設定し、財政的な貢献を担う。

2. 主な数値目標

1) 収入計画 (P&L ベース)

売上高 121,192,000 円

営業利益 2,000,000 円

2) 設備投資計画

当年度予算 10,886,520 円

主な案件

- ・ 本館北棟屋上防水工事
- ・ 予約システム開発
- ・ 本館北棟 3 階客室及び日本家屋 (別館) 給湯器取替
- ・ 本館南棟 2 階廊下空調設備新設
- ・ 日本家屋 (別館) 屋根一部瓦葺替

3) 宿泊者目標

上半期 4,620 名 (前年度比 96.2%)

下半期 4,430 名 (前年度比 105.4%)

年間 9,050 名 (前年度予測比 100.5%)

4) 年度期首要員 16 名

(以 上)